

【部会・分科会活動報告】 2019年5,6月度

| | | |
|---------------------|-----------|---|
| 食品 安全 研究 会 | 食品微生物研究部会 | <p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 本分科会にて確立した高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法を、国内の関連業界へ普及する活動の一環として、全国清涼飲料連合会（全清飲）の技術委員会を通じて「ソフトドリンク技術資料」への掲載を働きかけている。 また、原料サプライヤーは海外に幅広く存在することから、海外にも認知される必要性を認識し、海外の検査受託会社をターゲットとして考えている。そのために、分析方法のプロトコルやバリデーションの詳細を詰めたいと考えている。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 分科会リーダーの後任が 6/21 の部会で 賛成多数で了承された。 NITE、島津社との共同講習会について、夏以降に部会員にも案内していく予定。 菌種同定以外にも名城大の田村先生と共同でバイオマーカー探索などの取り組みを考えている。</p> <p>(3) チルド勉強会 ILSI 会議室にて①参加各社、②リーダーとサブリーダーでそれぞれ打ち合わせを実施した（5/23）。今後、勉強会として文献読み合わせを進めつつ、それぞれの活動に取り組む。</p> <p>① 芽胞菌の耐熱性試験法の標準化検討 8社が参加してセレウス菌基準株を用いて各社各々の試験法で D 値、z 値を取得したが、近い値もあれば異なる値もあった。試験法を揃えて再度実施する予定。</p> <p>② 低温増殖性ボツリヌス菌に関する調査の検討 II 群ボツリヌス菌芽胞の死滅条件等について、例えば国立医薬品食品衛生研究所の朝倉先生に話をうかがいたい。まずはメンバーからの質問を収集し、取り纏める。</p> <p>(4) ICMSF 勉強会 新しく分科会として発足したい。活動内容は主に以下の3点。 ① 勉強会（ICMSF 関連文書の日本語翻訳など） ② 情報公開（①成果のウェブページアップなど） ③ ワークショップの実施</p> <p>2. 2019年度 第2回部会全体会議を京都工芸繊維大学で開催した。27名の参加であった。勉強会講師として井沢先生から「食品・農業分野における大気圧低温プラズマの活用」について、櫻井研究員から「大気圧プラズマの化学的性質と反応性：食品科学分野への応用を目指して」について御講演いただいた。</p> |
|---------------------|-----------|---|

| | | |
|--|------------------------------------|---|
| | 食品リスク研究部会 | <p>1. 2019年度第2回目の部会を開催（2019年6月7日）。</p> <p>2019年活動計画として、①食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信、②参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会を行うこととした。</p> <p>2. 第46回日本毒性学会学術年会（2019年6月26～28日、徳島）において、シンポジウム「日本における食品のリスク評価は進化したか？」（座長：吉田緑先生（食品安全委員会）、福井英夫（Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社））で「食品領域の安全性評価の課題と ILSI Japan の新たな取り組み」を発表した。発表では、これまでの食品リスク研究部会の取り組みに加え、現在行っている高齢者を対象としたリスク評価の考え方の整理や代替法推進の取り組みを紹介した。</p> |
| | 香料研究部会 | 特記事項なし |
| A A T P R O J E C T | 概要 | 食品領域における動物実験代替の推進。 参加企業数 15 社（2019年6月現在） |
| | 2020 国際ワークショップ （ILSI Europe 協働） | <ul style="list-style-type: none"> 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開（AAT 関連メンバー等）にて開催する。 進捗： ILSI Europe とプログラム委員会を開催、発表者の選定を開始することとなった。 |
| | 腸管吸収 WG | <ul style="list-style-type: none"> 講演会：東農大清水先生をお招きし、「食品成分の腸管吸収メカニズムと測定方法」と題してご講演会いただいた。腸管吸収研究の重要さと難しさについて理解を深めた。（参加：27名） 昭和薬大山崎研にて食品成分にも適用可能な動態予測モデルの最適化の可能性について検討することとなった。 |
| | データベース WG | 食品成分を含んだ独自の毒性情報データベース構築に向け検討中。 |
| | 定期会議 | 6/7 に定期会議を実施、WG 等の進捗を確認、議論した。 次回予定：9/4 |
| | バイオテクノロジー研究会 | <p>1. 2019年度 第3回目会議を5月30日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第44号を5月発刊、ERA プロジェクト調査報告書 第45号の勉強会： <ul style="list-style-type: none"> 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 </p> <p>(2) GM 微生物食品について： <ul style="list-style-type: none"> 3/18「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌8月号に掲載予定。 </p> <p>(3) GM 作物について： <ul style="list-style-type: none"> ISBR2019（タラゴナ、スペイン）及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について： 報告書を ERA 特別号としてを ERA 第45号と同時に発行を目指し準備中。 ゲノム編集技術に関する内部勉強会について： 次回研究会(8月8日)に開催することに決定。 </p> <p>(4) その他： <ul style="list-style-type: none"> ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について： 5月16日開催 第1回企画委員会について報告。 </p> |

| | | |
|----------|---|---|
| 栄養健康研究会 | 栄養研究部会 | 2019年度2回目の部会を開催(2019年6月18日) ・第8回「栄養とエイジング」国際会議(2019年10月1-2日開催)の準備について、事務局と情報を共有。 |
| | GRプロジェクト | 第4回GR法多施設試験実施ならびに集計 |
| | 茶類研究部会・茶情報分科会 | 進捗報告特になし |
| 食品機能性研究会 | | |
| 健康な食事研究会 | ワーキンググループ1(WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築 | 5月31日:2017-18年の活動報告を「イルシー」誌139号に投稿完了した。 6月5日ミーティング:全体会議での発表内容を確認し、「健康な食事」「健康」の定義を明確にすること、WG1-3の有機的なつながりに関して議論することを提案することにした。また、有機的なつながりの一例として、WG2,3の調査結果の科学的文献検索をWG1が担当すると提案することにした。 6月11日:WG2からの要望に応じ「栄養素の優先度と栄養バランスを充足するのに必要な時間」に関して、WG1のリーダーの佐々木先生より文献を提供され、健康な食事研究会メンバー全員に共有した。 |
| | ワーキンググループ2(WG2) 外食・中食・給食の実態把握 | 5月8日:外食業界の調査を進める準備として該業界大手経営者へのヒアリングをサブリーダーが行った。まず簡単なアンケートをしてから個別訪問インタビューを行うこととした。 5月31日:サブリーダーが日本惣菜協会を訪問してアンケート調査の依頼をし、同意を得た。 6月4日:WG2ミーティング:惣菜協会を訪問した際の報告をし、アンケートを開始することとした。また、外食業界に関するヒアリング内容を共有した。 6月14日:日本惣菜協会会員企業様を対象としたWebアンケートを開始した。 |
| | ワーキンググループ3(WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証 | 6月5日:第8回「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュールと分担の確認をした。市町村・小中学校・大学などのヒアリングに関して打合せを行い、7月の活動スケジュールを決めた(7月中に、大学1か所、地方自治体1か所のヒアリングを行うとともに、栄養教育・公衆衛生の専門家との勉強会を実施予定)。 |
| | 研究会全体 | 5月17日健康な食事研究会進捗報告会(2月21日)フラッシュレポート原稿終了し、イルシー」誌139号に投稿完了した。 6月5日健康な食事研究会全体会議: ①各WGからの報告 ②WG1-3の有機的な連携に関する議論 ③「健康な食事」に関する共通概念についての議論。 第8回「栄養とエイジング」国際会議に向けて発表内容・要旨準備の確認をおこなった。 |
| | C H P | Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト |
| | Project DIET | 6月27日 NJPPP(栄養事業推進プラットフォーム)の委託事業 |

| | |
|--|---|
| (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト | 運営委員会にて、「インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2」を提案し承認された。本事業では、5月までパイロット試験を実施していた工場において、引き続き効果の検証を行うと共に、他の日系工場への普及セミナーを開始する。また、「栄養強化米を用いたカンボジアでの職場（工場）における栄養改善効果実証試験」の結果を報告した今後のIT企業との連携の可能性についても検討。 |
| CHP 全体 | The Power of Nutrition（栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体）/ Chatham House（英国のシンクタンク）が実施する「栄養問題とビジネス」についてのスタディー（2020年栄養サミットで発表）への日本企業の参画を依頼した。7月中旬に参画企業を確定し、スタディー実施をフォローアップする予定。 ◇ILSI Research Foundation と共同での Rice Fortification Project を検討した。Research Partner としての可能性のあるMIT（マサチューセッツ工科大学）と協議した。 |
| 国際協力委員会 | 委員会開催：2019年6月10日（木）15:00～17:00 【議題】 ・ILSI SEAR Food Packaging Symposium の演者招聘について ・11th BeSeTo 会議のトピックスについて ・情報源リンク切れ防止プログラム（定期自動チェック→アラート）の紹介 |
| 情報委員会 | 5月27日 16:00-17:00 栄養学レビュー編集会議： ・27巻3号通巻104号、5/10 発刊 ・5月20日に会員全員宛の「発刊お知らせメール」送信 ・27巻4号通巻105号、採択論文4報、翻訳、監修終了締→8月10日発刊予定 6月14日 10:30-11:30 イルシー誌編集会議 6月28日 10:00-11:00 栄養学レビュー105号打合せ→印刷へ |
| 編集部会 | ・「イルシー」誌138号発行 ・「イルシー」誌139～141号原稿依頼検討、編集 |

【講演会・シンポジウムご案内】

| 講演会名 | 案内 | 担当研究部会 |
|------|----|--------|
| | | |
| | | |

【事務局からのお知らせ】

| | |
|-----|---|
| 理事会 | 開催なし |
| 事務局 | 本年2月開催の総会にて決議された定款の変更（第19条 役員の報酬）を所轄の東京都生活文化局に申請し、いくつか指摘を受け修正の後、審査の結果、本年5月31日付の認証書をいただいた。ILSI Japan のホームページ上の定款を6月に差替えした。 |